

活動報告 01 | 五山送り火騒動の早期解決に向けて決議

「送り火の薪はまだ残っているそうですね。」

東日本大震災から一年以上が過ぎた4月、震災がれきの広域処理について岩手の被災地を訪れると、現地で何人もの方から問われました。京都ではほとんど忘れ去られた五山送り火騒動。

しかし、被災地の方々の心には今も薪への想いが残っています。

東日本大震災で亡くなられた方々の鎮魂と復興への願いを込めた企画が、結果として被災地の方々に悲しませてしまったことは残念でなりません。改めて被災者の悲しみや涙に触れ、

“今からでも京都ができることをしたい。

いや、託された想いのためにも、解決しなければならない”

と京都党は立ち上がりました。



薪の行方

「京都五山送り火」で燃やされるはずだった陸前高田の薪。

現在は京都市西京区の圧縮梱包施設にて保管されています。

薪はコンクリートブロック造りの旧機械室内でブルーシートに覆われ、10数本単位に小分けをして二重のゴミ袋に入れられた状態でした。これは、一見過度で厳重な保管にもみえますが、セニール袋で覆っているのは木くずが飛び散らないようにするためであり、放射性物質の飛散を懸念したものではありません。実際に保管の室内と屋外での放射線量を測定しましたが、差はなく、どちらも京都市の空間線量の平常範囲内です。（詳細は右ページをご覧ください。）



西部圧縮梱包施設に保管されている薪

被災地の想い



鈴木旅館さんにお話しを伺う

陸前高田の復興拠点「鈴木旅館」の経営者で、プロジェクトの中心人物である鈴木繁治氏を伺いました。

「二度目の検出騒動で陸前高田のイメージが壊れてしまった。

京都市民に「やっぱり（危険）」と思われたことにがっかりした。」

「いまでも瓦礫の山を見ると、早くなくなったら。」

と込み上げる思いを制し、目頭を押さえながら答えられました。

（京都党 HP にインタビュー時の動画を掲載しております。）

京都市議会の動き

「陸前高田市から取り寄せた薪の早期解決に関する決議」が全会一致で可決されたことが功を奏し、各党の代表と市長による議論の場が設けられました。そして、薪を使用しての工芸品作製が市長側より提案されました。京都党からは、一般ごみ等他のものに混ぜて焼却処分する方法や、鯖江市のように陸前高田の薪を土砂崩れ防止用の杭として再利用することなどを提案しています。いずれにしても、ようやく本格的な議論が始まりました。

今後も、被災地の一日も早い復興を願い、各課題に積極的に取り組んで参ります。

活動報告 02 | 放射線の風評被害への対応

がれきの広域処理や五山送り火でも問題となった放射能への風評被害。京都党では、放射能への風評被害に対し、慎重なご説明を続けています。

がれきの広域処理では、放射能・放射能汚染についてのQ&Aを設けたほか、各地での放射線量の測定も実施してまいりました。

これまでに測定してきた場所は、被災地のがれき仮置き場や

五山送り火の薪の保管施設、その他京都市内の各所など多岐にわたります。実際の線量比較をもとに、「何となく心配」という不安のお気持ちを少しでも払拭できるよう努めて参ります。



薪を保管する西部圧縮梱包施設内にて

京都市と陸前高田市（被災地）の放射線量

■陸前高田市のがれき仮置き場	
鉄スクラップ	0.053 μ シーベルト/時
木くず	0.063 μ シーベルト/時
コンクリート	0.064 μ シーベルト/時
廃タイヤ	0.066 μ シーベルト/時
土砂	0.102 μ シーベルト/時
■京都市内各地	
京都駅中央改札	0.071 μ シーベルト/時
★西京区に保管されている薪	0.075 μ シーベルト/時
京都御苑入り口	0.087 μ シーベルト/時
京都府庁前	0.105 μ シーベルト/時
京都市役所正面玄関階段	0.189 μ シーベルト/時
京都市役所東玄関階段	0.232 μ シーベルト/時

左の表からも、京都市と陸前高田市の放射線量は変わらないどころか、京都市の方が線量が高い結果も見受けられます。もっとも高い線量が測定された京都市役所東玄関階段は、五山送り火の保管薪の3倍以上にもなります。文部科学省が公表している京都市の空間線量の平常範囲は、0.033～0.087(注1)ですが、空気が流れが悪い場所などでは数倍の数値が出ます。通常の2～3倍といった数値の差は、普段の生活に溢れています。注1 福島原発事故発生以前の京都市の観測地における平常時の範囲。



陸前高田市の仮置き場にある木くず



京都御所入口